

長崎北病院 伝言板 9月号

令和4年9月1日発行

9月。朝晩 急に涼しくなりました。陽の光は透き通り、空は青く高く、うろこ雲・いわし雲・ひつじ雲が連なる。9月23日の「秋分の日」を境に夜が長くなっていきます。秋です。コスモス、金木犀、彼岸花 そして紅葉。陽の光、空の青、雲、花。愛でる余裕を持ちたい。



Que Será, Será(ケセラセラ)

コロナに蹂躪（じゅうりん）された夏でした。1000人になって「増えたな」、2000人越えて「大変だ」、3000人オーバーで「えらいことだ」、4000人ではもう「無言」。最近では2千人3千人台でも「減ったな」と感じてしまう。慣れとは恐ろしいものです。



このところ陽性者を保健所に全員報告する「全数報告」が問題だ、諸悪の根源だと喧しい（かまびすしい）。確かに報告内容が多く、聞き取りをして報告するのに時間がかかります。これが数十件、百件あれば業務に支障が出ます。しかし、面倒だからとやめてしまえば感染者を把握し経過観察する方法がなくなります。家で倒れていても誰も知りません。自分で「具合悪くなった、自分はコロナです、助けて」と積極的に発信しなければ気付かれません。報告に時間がかからないように内容を整理して必要最小限にすれば良いだけのこと。全数報告、把握は今後も必要でしょう。しかし、全数報告の議論は「枝葉末節」のはずです。「コロナがどうして増えてしまったのか、何が原因か。今後はどうなるのか、減るのか、増えるのか。どうすれば減らせるのか、対策は？薬はどうなっているのか、今後のワクチンは？」など根本的な議論が聞こえてきません。抜け落ちていきます。現状の反省がなければ同じ間違いを繰り返す

ことになる。コロナを押し返す、抑え込む本筋の議論をして欲しいと思います。最近では、以前に比べて 生活の自由度が増えています。移動や飲食も活発になっています。当然感染の機会が大きく増えています。これだけ増えても以前のような行動制限はありませんので減りません。経済を保ち、生活を元に戻し、社会を明るくするためには自由を続ける必要はあるでしょう。しかし、その自由の中で何とかコロナを制御しないといけません。そのためにはワクチンは必要ですし、マスクやお互いの距離、大声出さないなど基本的注意は必須です。それでも行動制限があった以前のように県内で100人以下とはなかなか戻らないでしょう。コロナウィルス、陽性者が周りにいる生活が続きます。自分も感染する可能性があります。それなら、今できることはかからない努力と、もしかかっても広げないことです。「体調がおかしい、喉がイガイガする、微熱、関節痛」などがあれば「様子見、風邪か？ エアコンで冷えた」ではなく、「私はコロナだな」と思って対応することだと思えます。家の中で別居、検査を受ける、隔離期間を守るなどで広げない努力を。当院では職員は会食禁止、旅行自粛などで感染防止の涙ぐましい努力を続けています。それでも職員も次々にコロナ陽性となります。広がってクラスターとなると病院機能が停止しますので拡大防止に必死です。幸い、今のオミクロン株は比較的症状が軽く、ワクチンを受けていればさらに重症化しません。「嫌だけど当分はコロナと共存、でも広げない」。これで行くしかありません。自由のためには多少の不自由と努力が必要。今の活動を続けたければ かからぬ努力、ワクチン、そして広げない行動。それでもかかることはある。その時はその時。高齢者、持病がある方は治療薬もあります。やることをちゃんとやってあとは「Que Será, Será(ケセラセラ)」。何とかなるさという意味とと思っていましたが本当は『人生は自分次第でどうにでもしていける』という意味だそうです。（何もしないで明日は明日の風が吹く。それは困ります）(A.S.)

